

●主な活動の記録 (1月~3月)

令和3年1月9日 新年活動始め式 矢田山遊びの森

寒波の襲来で非常に寒い朝、お互いに”本年もよろしく”との挨拶を交わしながら15名が参集。午前中、ぜんざいの振舞いがあるとのことで、朝会も料理体験館で。本日の活動は、薪小屋の修復、交流館脇側溝の掃除、炭窯周辺整備とぜんざいの準備とに分かれて実施。

11時過ぎに焼餅入りぜんざいの用意が出来、それぞれの作業を中断し、大釜の周りに集まり体を温めながら味わう。この間、理事長より今年も元気で楽しく活動が出来る様にとの挨拶があり、引続いて、今後の活動計画について話あり。現在進行中のモミジ谷・管理道脇の整備の後は、広葉樹林に育てていきたいと。これに関連、川波氏より育成の仕方へのアドバイスを頂いた。

また、お楽しみ会からは、近々こんにやく作りとキハダを使つての染めの予定ありと。なお、キハダ染めは、まず一度試し染めをしてから。

FV連よりは、3月天川村でのリーダー研修に関し、コロナの状況を見ながら、一部内容の変更もありうるも、実施するとの報告。詳細は来月に。

この後、まだ作業の残っている所は継続して、終了次第自由解散。



理事長新年挨拶



薪小屋の修復



側溝の掃除



ぜんざいを味わう

1月23日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

年明け2回目の活動、コロナで外出自粛要請が続き、天候不順もあって今日の参加者は10名(含む、新参加者2名)3蜜の心配もいらず、伸び伸びと矢田山の空気を満喫(やせ我慢?)。少し寂しいが、代わりに嬉しいことに、新しく若い2人の参加があった。

当初の予定では、「緑の募金」助成金活動のモミジ谷の整備、キハダの試し染め、薪の積みかえ作業等を行う予定だったが、雨天のため外での活動が出来ず、「安全作業、機器の取扱い」等新入会員教育や刈払機の歯の目立て他、機器の整備を行った。

また料理体験館で、女性会員による「キハダとタマネギの皮」を使った試し染を実施。キハダは樹皮を細かく裁断、タマネギは乾いた表皮をそれぞれ鍋で煮て、染め液を作り、そこに布を浸して染めた。中々の染め上がりで、一般参加者を募つての本番が楽しみ。

午後には、役員会を開き、今後の活動について協議。目前に迫ったFV連主催の洞川でのリーダー研修会活動について、理事長から報告。詳細は次回。14:00少し早めの活動を終えた。



朝会—新人紹介



キハダ原皮



切断したキハダ

2月13日(土) 定例活動 矢田山遊びの森 モミジ谷の林内整備とこんにゃく作り

好天の2月中旬の暖かい朝、総勢18名が活動拠点の子ども交流館に集合。

作業開始前ミーティングで、奥理事長から今後の活動予定等の周知があり、続いて平武理事から、①モミジ谷の林内整備 ②料理体験館で自前のこんにゃく作り、2つの本日の予定が周知され、14名と4名の2班に分かれての作業となりました。

モミジ谷班の詳細な内容は、担当の小野理事から、「この整備もあと2か月あまりとなり、今日から最後の仕上げとして、残っている笹などの下刈りと枯損木の処理を安全に留意して実施願いたい」旨の説明の後、現地へ出発、作業を開始しました。

到着後、モミジ谷下流のつつじが丘休憩所分岐点から上流に向けて、右手山肌の下刈り、左手谷の中にある枯れ木の除去、別に少し上流のナラ枯れなどの枯損木の伐採二手に分かれて、各々てきぱきとチームワーク良く進捗させ、午前の作業はほぼ予定通り進んだ。

昼食後、椎茸のコマ打ち準備や、薪貯蔵場所の移動などの雑務を済ませ、使用機器や装備の整備の後、こんにゃく班手作りのこんにゃく玉を全員いただいて、本日の活動は終了となりました。

2月27日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

チョット風の冷たい朝、15名が参加。朝会で、理事長より前回の定例活動時発生した中村さんの腰骨骨折事故についての報告あり。約一週間の入院後、自宅でリハビリも兼ねて約3か月近くの加療が必要とのこと。合わせ現在加入しているボランティア保険の内容に関し説明があった。他に、FV洞川温泉研修の申し込み状況の報告。

本日午前中の活動は、①野鳥の森整備、②クラフト材料用の竹の伐り出し、③シイタケ植菌に分かれて実施。

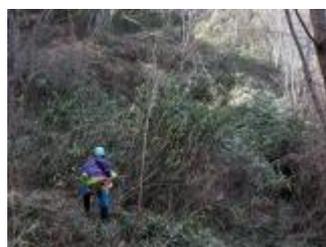
シイタケ植菌は、50本近くのホダ木に駒を打込み、二組の井桁に組んで、乾燥防止のため、予め切っておいたヒノキの枝葉を上被せ、仮伏せ作業を午後にかけて完了。

午後は、一部若手数名が、遊歩道近くの枯損木の処理を行った。終了後行われた理事会で

- ・ケガを契機に、超高齢者の作業内容見直しを検討。クラフト指導・材料づくりや、自然観察指導等、又女性は公園を訪れる一般人に草木染の指導。
- ・保険の見直し検討したが、当座現在のままで据置
- ・ITを活用した活動内容をPR、新たな参加者呼び込み方法について検討。
- ・HP一新を図るべく、衛藤さんに作業を進めてもらっていて、会報も含め4月よりバトンタッチの予定



野鳥の森整備



シイタケ植菌作業



仮伏せ

3月7日(日) 記紀万葉めぐりの道 矢田山遊びの森

奈良追分コミュニティ主催のイベントの一環として、昼過ぎに当地に立ち寄られた子ども3名を含む30数名に、森林環境教育とクラフト指導を実施。当方この日朝から自主活動に参加していた7名も加わり、9名で対応した。

蜜をさけるため、二手に分かれ、まずクラブ活動の概要を紹介の上、比較的年寄りグループの方は、奥理事長より森林環境税を主体に現在の林業の実態と森林行政につき、一方比較的若い方のグループには、奥村理事が森林の働きにつき解説。

この後、クラフト体験を実施。順に予め用意しておいたヒノキやキリを作業台の上で、手ノコで

小口切り（輪切り）をした後、電動グラインダーにかけて切り口を整えた。小さいものはコースターに、大きなのは薬缶・鍋敷き用にと。ノコギリを扱いなれていない人は、最初やたらに力を入れて引いていたが、チョットした手解きを受けた後は、比較的滑らかに切り進んだ。小さいお子さんはマーカでアンパンマンを描いたりした。

大きな間伐材を利用しての即席で作った椅子を追分に設置すべく持ち帰られた。



== 森林環境講座 ==



== 木工体験 ==



3月13日（土） 定例活動 矢田山遊びの森

本月最初の活動日は雨模様ながら、13名が参加。開始に当たり、理事長から来週末（3/20～21日）の天川村でのリーダー研修の説明があり、参加者は本日現在28名とのこと。

続いて本日の活動について、モミジ谷整備事業のリーダーから”雨模様でもあるので伐採等は見送り、昨年の植樹祭から夏を超えられずに枯れたイロハモミジの後にモミジ谷での実生モミジを移植する”旨の取り組みが説明され、次にコンニャク玉作りについて別の班で実行する説明も加わって、各々8名と5名の班に分かれて作業開始となりました。

モミジ谷整備班では、全員スコップや鍬を手に徒歩で、昨年3月に植樹した3段になっている植栽地に向かい、枯死したイロハモミジ7本を確認し、その3段に分かれて枯れたモミジのまわりを掘りつつ、あらた植樹が出来る準備を進めた。その後、全員でモミジ谷へ向かい、これまでの整備で保護してきたモミジの中から、より蜜になっているもののうち10本を選び、根をできるだけ切らないよう慎重に地面から掘り起こして植栽地へ運んだ。再び枯れないことを祈りつつこの10本を枯死した場所に植え替えて、予定した作業は完了。モミジの紅葉を楽しませてくれるまで、見守り育てていきたいものだともメンバーの考えが一致した日になったことと思います。



枯死したモミジ



モミジ移植作業



こんにゃく作り



キハダ染仕上り

3月20～21日（日） 森林ボランティア活動のリーダー養成 天川村洞川

「緑と水の森林ファンド」公募事業として、奈良ボランティア連絡協議会主催で実施され他の団体と合わせ参加。

週間天気予報では雨であったが、晴天に恵まれて天川村洞川及び村内各所にて実施。一泊二日参加21名、日帰り参加7名、地元関係者各位及び講師を含め36名で開催。

キハダ植樹地近くで、開会挨拶の後、植栽地の管理者で多大なるご協力を頂いた洞川財産区議長の挨拶をいただいて、5班に分かれ杉の人工林皆伐地にキハダ50本（鹿等の食害防止柵設置）を協働作業で植樹し、午前中に終了した。急斜面での作業であったが、老若男女共全員はつらつとした行動で、怪我も無く終えた。

午後は、面不動鍾乳洞を議長の説明で見学し、シェアハウス西友に移動。天川村森林政策課の冨瀬氏から村の概要や、木質バイオマス利用とその促進事業を始めとする林野事業について講演をいただいた。

それから、キハダを原料に製造されている 1300 年の歴史がある役行者が作ったとされる胃腸薬「陀羅尼助丸」について大峯山陀羅尼助製薬さんから製造工程の映像を交えて、お話をいただいた。これで、日帰り参加者は予定終了。

2 日目は、朝から前日とは真逆の大雨での視察となったが、洞川スキー場横の大伐採跡地の持続可能な森づくりプロジェクト地では、スキーハウス内で説明を聴くことが出来た。全体では 30 ヘクタールに及ぶ伐採地にみんな驚きであった。

バイオマス生産供給施設に移動、薪ボイラーの薪供給方式説明を受け、薪割り体験をさせていただいた。また、施設裏で育苗中のキハダ、クロモジ、ミズナラ他を視察した。

天の川温泉に移動し、薪ボイラーの視察を行った。昼食後、全工程を終えての修了式。最後に、天川村から観音峯付近に繁殖した外来種ジギタリスの駆除を 6 月に実施するので協力依頼を受けた。



参加者全員



検温



植樹作業



講演会



森づくりプロジェクト



薪ボイラー



薪供給施設



育苗場

3 月 27 日（土） 定例活動 矢田山遊びの森

暖かく良く晴れたこの日、絶好の花見日和で、参加 17 名全員頂上展望台へ。20 周年記念植栽地「永遠の下草刈り。一部は、遊歩道沿いで、枯れた 100 年超のヒノキの大木の伐倒。チルホールを設置し、切り倒しの準備ができ、全員が伐倒作業を見守る中、追い口にチェーンソーを入れ、ほぼ予定していた方向に無事地響きと共に引き倒した。

昼食は、再び展望台広場に戻り、サクラを愛でながら。一部は既に満開のものもあり、アオモジ・コブシと合わせ花競演。食後も草刈りをしたが、早めに切り上げ下山し、情報館近くで過日の洞川でのリーダー研修から持ち帰ったキハダの苗木 3 本を植栽し終了。



伐倒したヒノキ大木



下草刈り作業



花見



植樹作業

＜編集後記＞ 平成 19 年 1 月(2007 年)ホームページを立上げて以来、その一部である“活動の記録”の焼き直しとして、この形式での会報を発行してきましたが、本 4 月にホームページの一新を衛藤さんをお願い、合わせて以後、会報も担当頂くことになりました。長年に亘るご愛読、有難うございました。 岡本浩男